

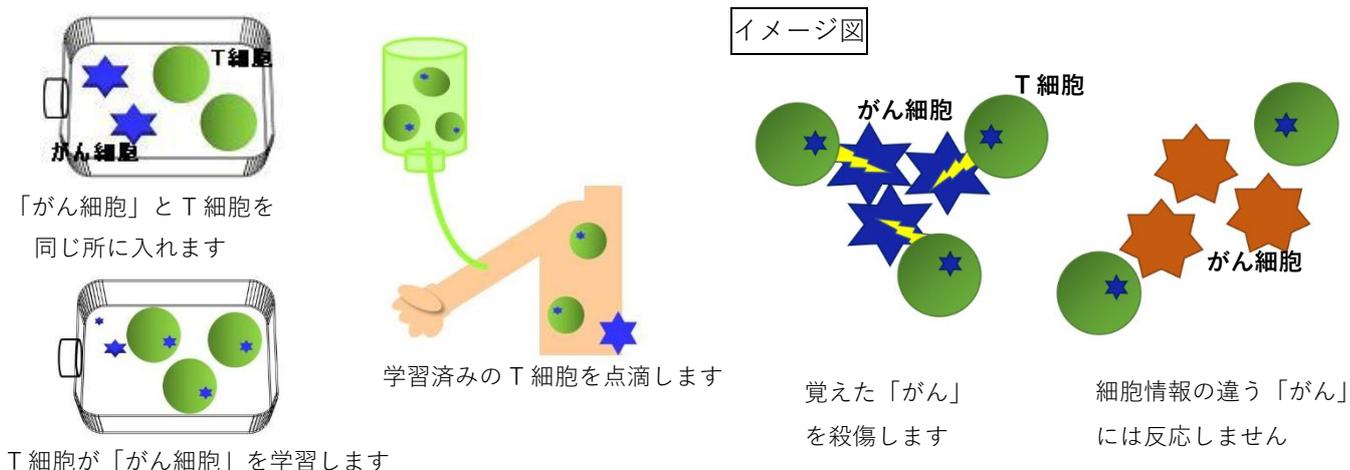
腫瘍特異的 CTL について

<CTL とは>

T細胞は獲得免疫系に属し、異常なかたちの細胞（「がん細胞」など）を学習させることにより、排除に動きます。T細胞の中でも「がん細胞」に対して殺傷性があるキラーT細胞にはNKT細胞や $\gamma\delta$ T細胞の一部も含まれます。その中でも「がん細胞」を学習させた腫瘍特異的CD8陽性キラーT細胞をcytotoxic T lymphocyte(CTL)と呼びます（ウイルス感染細胞に対するCTLも存在しますが、主に腫瘍特異的CTLをCTLといいます）。他のキラーT細胞と異なり認識したがん細胞を記憶し(メモリーT細胞)し、そのがん細胞で刺激することにより活発に増殖しがん細胞を殺傷します。

患者様の体内から取り出したがん細胞を入手できればこのCTLを作製することが可能です。

ただし、入手できた「がん細胞」のみ学習させますので、転移などで、「がん細胞」自体に変異があると、効果は期待できなくなります。



<培養条件>

手術で体内から取り出された「がん細胞」(検体)が必要です。

培養には時間とコストがかかりますので、ANK療法を1クール以上される方限定とさせていただきます。また、検体到着は、リンパ球採取前、もしくはリンパ球採取後は遅くとも1週間以内が必須となります。これを超えて到着した場合、CTL作製に必要なT細胞集団が確保できず、CTL培養はできませんのでご注意ください。

<検体について>

下記検体にてCTLを作製することができます。

<p><パラフィン包埋ブロック> 腫瘍をロウで固めたもの</p> <p><薄切片> 上記を薄く削ったもの</p>	<p>手術を受けられた病院の病理部で管理されています。</p> <p>ブロックの貸し出しを依頼します。</p> <p>ブロックの貸し出しができない場合、薄切片で提供いただきます。</p> <p>※スライドでは作製できません。</p>
<p><生腫瘍検体> 手術などで取り出されたがん細胞</p>	<p>手術を執刀される先生のご承諾が必要。</p> <p>※腫瘍を入れる容器はあらかじめご送付します。</p> <p>※検体は、すみやかに細胞培養センターに持ち込む必要があります。</p>
<p><凍結検体> 取り出された腫瘍を凍らせたもの</p>	<p>凍結方法により、作製できない場合もあります。</p> <p>状態を確認しお知らせください。</p>
<p><胸水・腹水・その他体液></p>	<p>がん細胞が存在するとは限らないため、作製できない場合もあります。</p> <p>※専用のバックに、できるだけ無菌的に提供してもらってください。</p>